



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

寺社書上

江戸幕府は、江戸府の地誌をまとめるため、『御府内風土記』の編纂事業を開始しました。『寺社書上』はその際、各寺社の様子や由来について調査した資料を取り纏めたものです。『寺社書上 浅草寺書上式』より文政八年（一八二五）本龍院から江戸幕府に提出された資料を全文記載させていただきま

本龍院、在東谷
一、聖天宮社、内陣三間四間、拜殿六間三間向背付。大猷院様御建立。

本尊 歎喜天、秘仏。

推古帝九辛酉年五月、天降鎮座。
祭礼毎年正五九月廿日。神輿氏子中渡御。

歎喜天本地仏
十一面観音、丈貳尺五寸、赤称檀座像。

天安元丁丑年、慈覚大師作。

三宝荒神、丈三尺五寸、木立像。
毘沙門天、丈三尺五寸、木立像。 伝教大師作。

弁財天 丈三寸、木座像。
北条氏政子前所持之处、当院江安置之年月不知。元社者境内池之中ニ在リ。厨子三鱗之紋ヲ付。

内陣 歎喜天額、最上乘院宮御筆。
拜殿 天井雲龍画、狩野大藏卿法眼祐清筆。

社之西
一、子安観音堂、壹間四間。

大猷院様御建立、但シ年月不知。本尊木像子安観音。

社之西
一、庚申社、三尺四間。

社之東
一、三峰社、四尺三尺。

社之東
一、疫伏神社、四尺三尺。

社之南
一、疱瘡神社、四尺壹間。

社之西
一、稻荷社、四尺一間。

道灌稻荷卜唱候。
社之北
一、絵馬堂、四間三間。

社之南
一、神輿蔵、三間式間半。

社之西
一、神楽堂、式間三間。

平堂取崩ニ相成候。

社之西
一、供水井戸、一ヶ所。

一、石鳥居、三基。
一、木鳥居、一基。 聖天町東町並

神輿蔵之脇
一、出山之积迦、壹躰。 石古仏。

裏之方
一、石燈籠、壹対。 壹基者、万治三年中野勘左衛門立。 壹基者、万治四年伊藤忠右衛門立。

□□下
一、石燈籠、壹対。

貞享四卯年正月從四位下森長氏寄附。

一、石碑、一。 戸田茂睡入道造立。
一、氏子。 聖天町、聖天横町、金龍山下瓦町、山谷堀。

什宝
一、陰陽鏡、壹面。

一、神代八ツ花形鏡、壹面。

一、唐鈴、一。 慈覚大師所持。

一、境内惣坪数、式千七百八拾七坪余。
一、門前町金龍山下瓦町西側表間口八拾壹間四尺、坪数千七百八拾八坪。

但シ田ニシテ三反六畝二拾八歩半。

当金龍山由来之事。
一、人皇三十四代推古天皇三乙卯年、浅草寺観世音出上之先瑞ニ一夜涌現之山ニシテ、其時金之龍此山上ニ下伏。 仍而此山ヲ金龍山号。 又待乳山ト申伝者年代不詳。

一、十二坊共、中興開山慈覚大師。
貞観六年正月十四日遷化ス。

東照宮様御朱印
一、十二坊禁制、壹通。
天正十八年頂戴。 今本坊預。

文政八酉年十一月。
年行事、修善院。 本龍院。 煩二付代、松寿院。

浮世絵展 開催中

九月十六日に大倉正之助氏とのコラボで幕を開けました浮世絵展は、お陰様で多くの方に足をお運びいただいております。

今回の浮世絵展では「待乳山と隅田川」と題し、葛飾北斎の『絵本隅田川兩岸一覽』を中心に、多くの浮世絵を展示しております。



『絵本隅田川兩岸一覽』は高輪から浅草・橋場までの隅田川兩岸

の風景を描いたものをまとめた本です。葛飾北斎が当時の人々の生活や遊び、四季折々の姿を四十六枚の浮世絵に写し描いています。パネル展示だけではなく、実物の本も手に取ってご覧いただけます。

他にも当山所有の浮世絵も多く展示されています。江戸時代から明治に書かれた珍しい浮世絵も展示されております。滅多にない機会ですので是非ご鑑賞くださいませ。

残り日数が少なくなってきましたが十月一日の十一時と十四時浅草寺教化部の学芸員である藤元裕二氏による「浮世絵展ギャラリートーク」が行われます。こちらも是非ご参加ください。

日時 平成二十九年九月十六日～十月四日まで

会場 信徒会館大広間特設会場

時間 九時半～十六時まで

震災供養碑の慰霊法要

九月一日、住職導師の下、震災供養碑の慰霊法要が行われました。

当山の隣の聖天公園にある震災供養碑は戦前まで当山の敷地にあつたものです。毎年九月一日の防災の日には、関東大震災で亡くなった方を供養する法要を行っております。

道灌稲荷跡碑 除幕式

八月七日より行っていた稲荷社の鳥居の改修が終わり、稲荷社の右隣に道灌稲荷跡碑が建立されました。それに合わせて九月三日、道灌稲荷跡碑除幕式が開かれました。

かつて当山の境内には太田道灌おたどうかん勸請の道灌稲荷が祀られていました。太田道灌おたどうかん（一四三二―一八六）は、江戸城を築城したことで知られる室町時代後期の武将です。江戸城守護のために多くの神社を勧請したと言われ、特に稲荷尊と縁が深かったと言われています。文政八年（一八二五）、本龍院より江戸幕府に提出された『寺社書上』には、「一、稲荷社、道灌稲荷と唱候、四尺一間」とあり、また、かつて聖天町内の木戸には「道灌稲荷の守護」の札が貼られ、

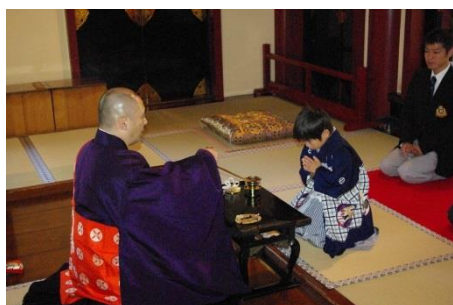
地域の人々より尊拝を受けていたことがわかります。

当日は導師である住職他、当山僧侶六名出仕の下、稲荷社の前にて法要と除幕を行いました。



七五三参りの案内

当山では十月から十一月を中心に七五三参りを承っております。七五三参りは三歳、五歳、七歳の成長の節目を祝う年中行事の一つとなっておりますが、



もともとはそれぞれの年齢で行う異なった行事でした。三歳男児・女児の「髪置かみおき」（髪を伸ばし始める）、五歳男児の「袴着はかまぎ」（袴をつける）、七歳女児の「帯解おびとけ」（付け帯を取り、帯を締める）という儀式が七五三という一連の行事となり定着した、とされています。

お参りは一 가족ごとにも本堂内陣にて行者様から直々にお加持を授けられます。法要が終られた後、お子様のお名前とお年が入りましたお守りとお供物をお授け致します。

法要は予約にて承っております。土曜日曜はご希望の方が多くありますので、お早めに寺務所の方にご連絡下さい。御志納金 五、〇〇〇円也

御奉納

吉田純真様より行者様用の下駄と法要用の雪駄せつたを奉納していただきました。本堂に上がる際、使わせていただきます。



十月行事予定

御縁日大法要

歡喜講祈祷会

十月十五日(日) 午前十一時 講金 三、〇〇〇円也

ご参拝の皆様の開運招福を祈念し、各自のお名前入りのお札を授与いたします。

朝まいり会

十月一日〜七日 午前八時から八時半 会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

日曜勤行

十月八日(日) 午前九時 参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

十月八日(日) 午前十時/午後二時 会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後は空いていますので、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

十月二十八日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

十月二十五日(水) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

十一月の行事 御縁日大法要

写経供養会

十一月十二日(日) 午前十一時三十分 講金一、五〇〇円也

曇講

十一月二十日(月) 午前十一時 講金一、五〇〇円也

ご祈祷のご案内

聖天様独特の供養法で

ある浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様

のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊

天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて

頂けるのであります。当山ではこの浴油祈祷

を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて

受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈

祷期間をお伝え下さい。またご遠方の方やお急

ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。

どうぞお申込みください。

祈祷料

別座祈祷 壱万円(一週間)

浴油祈祷 三千五百円(一週間)

華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行

っております。寺務所にてお

問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、

出仕の僧侶が声明をお唱えす

ることで、尊天さまに御礼の

供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要とし

て、大般若経六百巻を転読い

たします。

自動車加持 法要料 壱万円

当院にてお車のお加持をい

たします。当日はお車にてお

越してください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。